

いろいろなことを教えてくれる子どもたち (五)

村石京子

○春のお知らせ

寒かった冬も終って、待っていた春がやって来ました。室内での遊びの多かった三学期に比べて、子どもたちは羽ばたくように戸外へ飛び出して行きます。入園式の日には桜が咲いていない年というのは、私が勤めるようになってから初めてのことでした。

が、それでもやがて陽ざしが柔かく暖かさを増してくるとともに、あちらこちらで固かった蕾が一せいに開いて色とりどりの花が咲き出しました。桜吹雪が舞い、花壇のチューリップがぐんぐんと背伸びをはじめ、タンポポはそこかしこに黄色の顔をほころばせます。この園庭の様子に、はじめは心細い表情だった新入園児たちも、いつしか気持がほぐれ、三

々五々友だちとの群をつくりはじめる四月の末ともなりました。

四才児のこの頃の保育は、集まれば蜂の巣をつついたようになぎやかさであり、とり散らかされて足のふみ場もない程のままごとのコーナーの片づけに茫然としたり、砂あそびの後の泥だらけの洋服の着替えに私ばかりが汗だくになって奮戦したりの日々なのです。けれど、子どもたち一人一人が思う存分あそべたかどうか、幼稚園は楽しいなという思いが実感として受けとめられただろうかという新入園児を迎えたときの第一番の願いを持ってばこそその一日一日なのです。そして子どもたちの笑顔や歓声の中で、教師も子どもたちと共に、一日の充実感を少しずつ胸の中で味わえるようになって来たこの頃なのです。

そんな春たけなわの或る日、もうそろそろ帰りの用意をはじめなくてはと思っていた矢先、息せき切つてT夫が私を呼びに来ました。「すぐ来てちょう

だい」と真剣な表情です。何か事件かなとちょっと心配しながら、T夫と一緒に走って行って見ました。彼が「こっちだよ」と言いながら連れて行ったのは、小高い丘になっている敷地で、子どもたちは「お山」と呼んでいるところです。そして前にも書きましたが、ここは私の幼稚園の大切な雑草園なのです。ここには春の訪れと共に、タンポポ、はこべ、ひめおどり草、はるじおん、おおいぬのふぐり、クローバー、のぼろぎく等々が咲き乱れ、何か「心のどけき春の日に」と言った気分ひたれる場所なのです。この日の少し前、私とM先生とはこの丘へ来て「野の草花」(古矢一穂 ぶん・高森登志夫 え)の本を片手に、ここに生えているいろいろな野草の種類をあげて、その名を言いながら一時を過ごしました。先にあげた草の他にも、子どもたちがお団子屋さんをするときの大事なよもぎもあれば、子どものお米と呼んでいる稲科の植物も初夏には実ります。

そして今日、T夫が呼んだのは何かというと、「ね
先生、見て、お山がね、水色みたいでしょう。」

ほら小さい水色のお花が、ほら、ここにもあそこにも一ぱいなんだよね」と心の底から感心した顔で私に告げました。ここ数日の暖かさでバツと咲いた花によって、あちこちに水色の敷地が出来ていたのです。「本当、一ぱいね、きれいだこと」と私も一緒に見ていると、「だからT君ね、先生にお知らせに行つたんだよ。」と嬉しそうです。「有難う、すてきな春のお知らせね。」としばらく手をつないで見っていました。小さな水色の花の群生、これを見つけたとき、子どもながらもその自然の変化に驚き、美しさに感動したのでしょう。そしてそれを一生懸命伝えてくれたその気持、T夫の心もこの花に似てい
らしいと思いました。

それから数日して、朝日新聞の声欄にこの可憐な花の名前のことで、「イヌフグリはおかしい、ペロニカと呼んだらいかが？」、「いや、やはりイヌフグ

リの方がよい。」と楽しい論争が繰りひろげられていました。それを読んだとき、あら、あら、他の社会の人の中にもこの花に関心を持つ人達がいて、同じようなことを話しているのだなど、先頃のM先生との野草散策のときのことを思い出して、おかしかったり嬉しかったりしたものです。

○白つめくさのこと

それから数週間たって、五月の中旬に遠足に行きました。今回は母親同士の親睦もかねて母子遠足です。たくさん歩いておべんとうにした後、草摘みや虫さがしなどしていると、H子がクローバー（白つめくさ）の花を一つ、手の平にバラバラにくずしてのせて、私のところへ持って来て言いました。「これ、白つめ草って言うのよ。」「そうね、そういう名前です。言うこともあるわね。」と平凡に答える私。そしてその次にH子が言ったのはこうでした。「これ、

白いつめみたいでしょ。だから白つめくさっていう名前なのね。白いつりさんのつめみたいね。」本当に、そう言われてみると、はぐされた白つめくさの一ひらずつの花びらは、繊細でちょうど小さな小鳥の爪のようです。その瞬間からH子の手の中にあるのは、クローバーの花ではなくて、優しい白い小鳥のつめに私には見えました。今まで何気なくクローバーの花を白つめくさとも呼ぶとだけ知っていたので、これこそ本当に子どもに教えてもらった新しい知識です。

きつとH子も優しい母から、今日教えてもらったのでしょ。私とH子の様子を見ていたH子の母親が傍へ来て、「本当に小鳥の爪みたいに見えますけど、そういうことからこの名前がついたのでしょうか？」と言われました。これから遠足は何回もあるでしょうが、H子には今日の遠足は白つめくさを知った思い出が残り、私はH子からそのことを教えて

もらった思い出が残ると思っています。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

